

平成 14 年 9 月 10 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

国際石油開発(株)(インペックス)のオーストラリアにおける事業活動の拡大について

A 国際石油開発(株)(インペックス)は、アルファ石油(株)(インペックスの 100%出資子会社)を通じて 2001 年 4 月にオーストラリア連邦政府より発表された探鉱鉦区の公開入札に対して、豪州で豊富な操業経験を持つ Santos(サントス)社および大水深掘削に卓越した技術を保有する米国の Unocal(ユノーカル)社と共同スタディを行い、有望鉦区を選定の上 2002 年 4 月に共同で応札していたところ、この度同政府よりビクトリア州ポートランド沖合の VIC/P51 鉦区および VIC/P52 鉦区、並びにタスマニア島北西沖合の T/33P 鉦区の計 3 鉦区に対する探鉱権を付与された。また、インペックスはアルファ石油(株)を通じて豪州企業 Magellan(マゼラン)社から北西大陸棚沖の有望鉦区である WA-288-P 鉦区及び WA-311-P 鉦区の両鉦区における権益 65%を譲り受けることにつき基本合意に達した。インペックスはこれら 5 鉦区での新規探鉱事業を加えることにより、更に豪州での事業活動を拡大することになる。

i) VIC/P51 鉦区、VIC/P52 鉦区及び T/33P 鉦区の 3 鉦区は、水深 300m から大水深 1,500m にかけて原油・天然ガス発見の可能性が高く、商業性を期待し得る構造がそれぞれの鉦区において複数摘出されている。

ii) 一方 WA-288-P 鉦区及び WA-311-P 鉦区は、水深 50～150mであり、原油発見が期待される探鉱ポテンシャルの高い鉦区である。

B インペックスは、豪州をインドネシアとならぶコアエリアとし子会社を通じて、以下の事業展開を行っている。

i) アルファ石油(株)を通じて既に 1994 年より西オーストラリア州沖合のグリフィン油田において原油生産(本年 7 月末現在、日産量 3 万 3 千バレル、累計 1 億 4 千 2 百万バレル)を行っており、同国において既に安定した経営基盤を確立しているが、より事業の拡大を図るため、1999 年にファームインした WA-155-P 鉦区に加え、2001 年下半期にはビクトリア州沖合の VIC/P42 鉦区、VIC/P45 鉦区の 2 つの探鉱鉦区を取得しており、今回、これに加え前述の 5 探鉱鉦区へ戦略的観点から参画することとした。

ii) サウル石油(株)(インペックスの 100%出資子会社)を通じ、豪州・東チモール共同石油開発海域内のエラン・カカトゥア油田においては当社権益約 21%で参画し、1998 年より原油生産(本年 7 月末現在、日産量 7 千バレル、累計 2 千 5 百万バレル)を行っており、また、バユ・ウンダン ガス・コンデンセート田(可採埋蔵量：LPG・コンデンセート分約 4 億バレル、天然ガス約 3.4 兆立方フィート〔約 1,000 億m³〕)に約 12%の参加権益を保有している。同ガス・コンデンセート田から生産される LPG・コンデンセートについては 2004 年から生産を開始(日本向けを中心に販売)し、天然ガスについてもダーウィン郊外に建設するガス液化プラントにて LNG を生産し、2006 年から 17 年間に亘って東京電力と東京ガス向けに年間 300 万トン販売することで基本合意した。

iii) インペックスの豪州オペレーター事業としてはインペックス西豪州ブラウズ石油(株)(インペックスグループの 100%出資子会社)を通じ、参加権益を 100%保有する西豪州北西大陸棚 WA-285-P 鉱区において既に、試掘井 3 坑の成功によって、有望なガス・コンデンセート田を発見しており、2003 年第 2 四半期より経済的開発シナリオ策定の為、評価井 2 坑、並びに鉱区残存探鉱価値評価の目的で、試掘井 1 坑をそれぞれ掘削する予定である。

※) 補足説明

1.VIC/P51 鉱区および、VIC/P52 鉱区はオーストラリア連邦ビクトリア州沖合の原油・天然ガス生産鉱区が集中しているバス海峡付近に位置する南北に隣接する海上探鉱鉱区であり、原油・天然ガスの発見が期待される。また近隣にメルボルン、アデレード等消費地があり、ガス発見の場合は、既存のパイプライン施設を利用する等、効率的な開発が期待される。

2.VIC/P51 鉱区は、鉱区面積約 2,615 平方 km、水深 200m - 1,000m の探鉱鉱区である。本年後半には地震探鉱作業を、また来年秋以降には試掘をそれぞれ予定している。本鉱区の権益比率はオペレーターである Santos 社 33 1/3%、アルファ石油 (株)33 1/3%、Unocal 社 33 1/3%となる。

3.VIC/P52 鉱区は、鉱区面積約 5,530 平方 km、水深 1,000m - 3,000m の探鉱鉱区である。上記 VIC/P51 鉱区と同様、本年後半には地震探鉱作業を、また来年秋以降には試掘をそれぞれ予定している。
本鉱区の権益比率はオペレーターである Santos 社 80%、アルファ石油(株)20%となる。

4.T/33P 鉱区は、オーストラリア連邦タスマニア州北西 50Km の沖合に位置する鉱区面積約 4,955 平方 Km、水深 200-3,000m の探鉱鉱区である。スタディ結果から商業規模の未試

掘構造の存在が示唆されており、本年後半には、地震探鉱作業を予定している。本鉱区の権益比率はオペレーターである Santos 社 80%、アルファ石油(株)20%となる。

5.WA-288-P 及び WA-311-P 鉱区は、周辺では生産油田や発見油・ガス田があり、当社オペレーター鉱区 WA-285-P 鉱区の北東約 200Km、ダーウィンの西方 550Km、オーストラリア連邦西豪州北西大陸棚に位置する互いに隣接した海上探鉱鉱区で、それぞれ鉱区面積約 2,000 平方 Km、水深 50-150m の鉱区である。本鉱区においては、本年末から来年にかけて最初の試掘を予定している。基本合意によれば、両鉱区の権益比率はアルファ石油(株)65%、オペレーターである Magellan 社 35%であり、なおアルファ石油(株)は試掘 1 号井の掘削終了後、両鉱区においてオペレーターシップを取得するオプションを有している。



